令和５年度　第57回　中学生の「税についての作文」
町田税務署長賞

『０円で救急車を使えるということ』

町田市立小山中学校　３学年　佐藤　樹璃

日本では国籍や人種、納税の有無に関係なく、誰でも無料で救急車を利用することができる。これは、救急車の出動にかかる費用が私たちの税金で賄われているからだ。どうやらこのような国は珍しく、多くの国では救急車の利用にはお金がかかるらしい。そのため、海外では救急車を利用したがらない人もいるそうだ。

人は生きている以上、いつ、何が起こるかわからない。突然具合が悪くなるかもしれないし、少し油断した隙に大けがをするかもしれない。私の妹もそうだった。一歳のとき、お菓子を食べた後に具合が悪くなり、救急車で病院に運ばれたことがある。原因はお菓子に入っていたピーナッツだった。アレルギーがあることがわかっていなかったときにたまたまピーナッツを口にしてしまったのだ。もしもこのとき、救急車の利用に多くのお金が必要だったら親は利用するか迷っただろうか。迷った結果、病院に着くのが遅くなっていたら妹はどうなっていただろうか。命が危ないとき、ためらわずに救急車を利用するという選択をすることができるのは素晴らしいことだと思う。

しかし、誰でも無料で利用できるからこその問題も起きている。それは、救急車の悪質利用だ。一刻を争うような状況の人がいる中で、救急車をタクシーのように利用する人もいる。これでは、本当に必要としている人への対応が間に合わず、税金も無駄になってしまう。一回の悪質利用でおよそ四万五千円の税金が無駄になり、本当に必に要な人への対応が間に合わなければお金には替えられないものを失うことになる。

こうした中で、救急車を有料化するべきということもあるそうだ。有料化すれば気軽に利用する人が減り、その分本当に必要としている人のもとへ早く行くことができると考えられる。出動回数が減れば救急車に使う税金も減るだろうし、出動に関わっている人たちの負担を減らすこともできる。しかし、お金に余裕がない人は利用をためらってしまうかもしれない。それにより救えた命が救えなくなってしまうということも考えられる。私は誰でも無料で利用できるままであってほしいと思う。有料化すれば、命の重みに差がついてしまうように感じる。

０円で救急車を使えるということは、誰かが自分の貴重なお金を税金として納めているということだ。このお金は必要としていない人のために使われるべきではない。税金が正しく使われるようにするためには国の中心となっている方々だけではなく、私たち一人一人も税金について考え、正しく行動していく必要があるのだ。